

# 世界都市を目指した

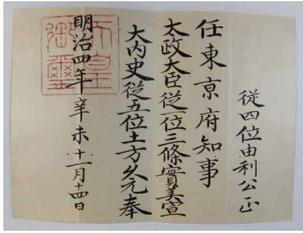
## 東京府知事、由利公正

（ニューヨーク等に肩を並べる街に）

**廃** 藩置県後の明治4（1871）年、由利公正は東京府知事に任命されました（当時43歳）。黎明期の東京府の礎を築いた一人に数えられる由利ですが、その足跡はどのようなものだったのでしょうか。

明治初期の東京の姿は、武家屋敷が整然と立ち並び、瓦が美しく連担した町並みでした。しかし、明治2（1869）年の版籍奉還等により諸大名は江戸を去り、武家との取り引きによって生計を営んでいた市民は生活に困窮し、人口は激減します。東京の道路にはごみが放置され、雨が降れば道路は膝までつかるなど、外国人から政府に対して苦情が絶えなかったといわれています。「帝都

東京」とは言っても、実態は近代化が遅れた未整備な都市でした。これら都市問題の解決が、府知事、由利に課せられていた使命だったので



東京府知事辞令  
(福井県立歴史博物館蔵)

由利が府知事に就任してから半年後の明治5（1872）年2月26日、銀座一帯が大火となります。28万坪



井上馨肖像 (国立国会図書館蔵)

が焼失し、5千戸が全焼、2万人が被災したと言われています。由利は、これを機に抜本的な都市改造が必要だと考え、街路を思い切って広くすることや不燃性の煉瓦建築にすることなどを柱とする大がかりな不燃性都市化計画を提案しました。この時、由利と意見の対立を見せたのが当時の大蔵大輔、井上馨です。由利と井上は、ともに強烈な個性とプライドを持ち、大規模な計画を主張する由利と、多額の財政支出を望まない井上は意見が一致しませんでした。銀座の復興計画は、道路以外は話が進展しない状況となりました。井上は一計を案じ、同じ長州藩出身の伊藤博文と薩摩藩出身の大久保利通と謀り、由利を岩倉使節団に参加させたとされています。府知事現職のまま渡米した由利は、明治5（1872）年7月、イギリスにおいて府知事を罷免されたことを知ります。銀座の復興計画はその後、井上とイギリス人ウォートルスの主導により進められ、明治11（1878）年秋に全体

の建設が完了しています。

歴史に「もしも」は禁物ですが、もし、由利が渡米せず、知事のまま、東京府の復興計画を実施していたら、ニューヨークやロンドン、ワシントンを超える帝都東京が当時できていたかもしれません。

### 関連史料・ゆかりの地

#### 東京都江戸東京博物館



模型「銀座煉瓦街」

ゆりきみまさ  
由利公正が取り組んだ東京不燃化計画。その結果生まれた銀座の姿を復元したジオラマが展示されています（常設展の展示「文明開化東京」）。江戸から現代へ連なる首都東京の誕生と経過を知ることができます。

【住所】東京都墨田区横綱1-4-1 (JR両国駅より徒歩3分)